

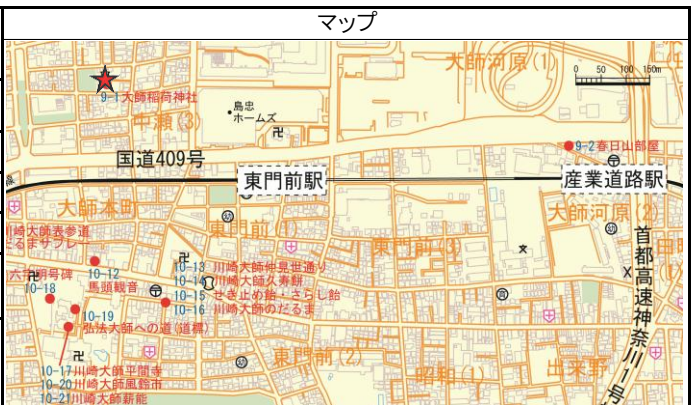
かわさき区の宝物シート

宝物No.	だいいなりじんじや 大師稻荷神社		
9-1			
エリア	大師地区	シーズン	通年
	中瀬・大師河原	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	7
問い合わせ	大師稻荷神社
TEL	044-277-1622
FAX	044-277-1622
E-mail	
URL	
交通	川崎駅よりバス「中瀬三」下車徒歩1分



基礎情報

■創建年代は不明だが、往古洲崎の海中に出現した十一面観音（大蔵神）を源義家の旧臣・平間兼乗が拾いあげ祀ったのが始まりとされ、一説には亀の背に乗って出現したとも伝えられている。なお同じく兼乗が海から弘法大師像を引き上げて祀ったとされるのが川崎大師平間寺の由来である。

■本殿と拝殿には人物や動物、花鳥など多種多様な彫刻が保管されている。天保5年(1834)に平間寺の本堂が再建された際、彫刻師の後藤富五郎の孫である富八が制作したものとされている。境内の手水鉢は元文5年(1740)に川中島、大師河原、稻荷新田村の3村によって奉納されたものである。

由来・エピソード

■殿町、江川町、田町、日ノ出町のあたりはかつて「稻荷新田村」と呼ばれた。元禄10年(1697)までは「大師河原新田」といったが、鎮守であった大師稻荷神社が新田開発に御利益があったため稻荷新田と改名されたという記録が残る。現在は中瀬町のみ鎮守であるが当時は大師地区で広く信仰されていた。

■そんな氏子地域が広がった頃、祭礼には流鏝馬（やぶさめ）や神楽も奉納されて近郷近在から大勢の人々が集まりにぎわったといわれる。土地の生まれである笛の名手・中山安太郎によって広められた「中瀬囃子」は、大戦中に継承者がいなくなり絶えてしまった。戦後になって羽田から連を招き昔を懐かしむにとどまっていたものが、昭和53年(1978)秋の祭礼時に期せずして復活の声があがり、神社と町会の呼びかけによって有志が集い「稻瀬会」という保存会の設立に至った。8月の大師稻荷の祭礼の他、稲毛神社の獅子舞（1月）、祭礼（8月）、酉の市（11月）や若宮八幡宮の祭礼でも披露されている。

補足・その他

関連シート

- (1-13) 稲毛神社
- (6-10) 中島八幡神社祭囃子
- (10-3) 若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-17) 川崎大師平間寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-1

けいきゅうはっしょうのちひ(かわさきだいしえき) 京急発祥の地碑(川崎大師駅)

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区大師駅前1-18
問い合わせ	京急ご案内センター
TEL	03-5789-8686または045-441-0999
FAX	
E-mail	
URL	http://www.keiyo.co.jp/information/history/index.html (京急電鉄HP/京急歴史館)
交通	京急大師線川崎大師駅よりすぐ



基礎情報

- 京浜急行電鉄創立70周年を記念して、発祥の地である川崎大師駅に京浜急行電鉄(株)によって石碑が設置された。
- 明治32年(1899)京急の前身の大師電気鉄道が京都電気鉄道、名古屋電気鉄道に続き日本で3番目、東日本では最初の電気鉄道として開通した。当初は六郷橋から大師停留所の2km区間を路面電車が運行された。

由来・エピソード

- 明治5年(1872)、日本に初めて鉄道が開通し、新橋・横浜間を蒸気機関車が走り始めた。川崎駅から川崎大師への参詣客の多さに注目した資本家・立川勇次郎が、明治29年(1896)「川崎電気鉄道敷設特許請願書」を政府に提出し、明治31年(1898)2月25日に大師電気鉄道(株)を創設する。翌年1月21日に、六郷橋～大師区間での操業が開始された。川崎駅から直通で大師まで営業していた人力車夫組合「だるま組」の反対などによって六郷橋からの運行となった。開通日は、川崎大師平間寺の縁日にあたり、参詣客以外の見物人も大勢集まり、数十人の警官がその整理にあたったという。
- 開業当時の資本金は9万8千円、単線2kmで保有車両は5輛だった。多摩川の河岸にはアメリカ製のボイラー設備をそなえた久根崎火力発電所がつけられ送電が行われた。同年4月に京浜電気鉄道(株)と改称、11月には乗客増に対応し複線化された。なお、発電所の余剰電力の供給も行われ、これを頼りに多摩川沿川・周辺には次第に工場が進出し、後の京浜工業地帯の基礎が形づくられていくことになる。さらには、電鉄利用促進をはかる目的から、電灯電力供給事業を土台とした住宅地の造成・分譲(関東の私鉄では最初の住宅地分譲)や、工場誘致と住宅地造成を目的とした川崎運河(現在の京町緑地)の開削など、沿線開発事業にも力を注いだ。
- 大正14年(1925)、鶴見の総持寺と川崎大師を結び、臨港地区への通勤客の輸送を目的とする関連会社「海岸電気軌道」が発足するが、程なく昭和5年(1930)に浜川崎から路線を延ばしていた鶴見臨港鉄道(現JR鶴見線)に合併された。さらに軌道線が路面を走っていた産業道路の拡張を契機に、昭和12年(1937)12月、海岸電気軌道は廃止された。その後、工場地帯への戦時の輸送増強を目的として、昭和19年(1944)海岸電気軌道の路盤跡を利用し大師線の大師～産業道路間が開通された。昭和23年(1948)6月に現在の京浜急行電鉄(株)に改称し今に至っている。

補足・その他

- 川崎大師駅の改札口付近にある10本の柱には「1928」という刻印がある。これは昭和3年(1928)に六郷橋～川崎大師間を現在のルートに変更した際に使用されたレールを、昭和31年(1956)の木造からコンクリート造への駅舎改築にあたって支柱として使用したものと考えられている。

関連シート

- (1-2)六郷橋駅跡
- (5-4)京浜急行大師線 港町駅
- (5-9)京浜急行大師線 鈴木町駅
- (8-8)京町緑地と川崎運河の遺構
- (22-2)鶴見線
- (22-3)南武線(支線)

かわさき区の宝物シート

宝物No.	せんごんぼう
10-2	池言坊

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区大師駅前2-1-2
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩3分



基礎情報

■江戸時代に大師河原の開発を行った池上家の墓所。現在の大師区池上から大師河原に移住してきた21代幸広以来の一家一門の墓塔が数10基並んでいる。川崎の産業と文化の発展に大きく貢献してきたことで有名な池上一族の中でも24代池上幸豊の名は広く知られている。

由来・エピソード

■池上家初代宗仲は、日蓮上人に帰依した人物。21代幸広は『水鳥記』にも登場し、新田開発のため池上家の土地（現大田区）約7万坪のほかに、日蓮上人ゆかりの品々を池上本門寺（大田区池上町）に寄進して、一族郎党を引き連れて大師河原に移住してきた。やがて開拓に成功し幸広は名主となった。

■そして、代々の開拓精神を受け継いだ24代幸豊は宝暦9年(1759)、14町5反（約143ha）の池上新田を開発した。また、サトウキビ栽培と砂糖の製造にも成功したほか、梨・桃などの果樹栽培や製塩などの殖産興業の発展にも貢献。

■幸豊の新田開発に参加した村民の多くは貧しい人々であり、新田開発の一部はこうした村民のためのものとして新田での収益は雑穀の貯蔵、村普請の資金、村民への貸付けなどにあてられた。様々な新田開発においてこのような田畑を「義田」といい、四谷上町にある義田稲荷神社はこれに由来している。また、文人としても知られる幸豊は、貴重な記録や随筆などを残している。まさに川崎の殖産、文化の先駆者である。

■池上家38世として生まれた幸操（ゆきこと）は安政2年(1855)生まれ。明治5年(1872)に池上新田戸長となり、明治8年(1875)2月から稲荷新田より潮田村まで10ヵ村海面汐除堤防掛として、明治12年(1879)に中丸子村から大師河原まで13ヵ村堤防掛を歴任した。明治12年(1879)に県会議員に当選。

補足・その他

■平成11年(1999)5月、池上家32代幸政・よ志子夫妻によって酒合戦「350周年記念碑」が若宮八幡宮境内に建立された。同家は崇祖の志が篤く、池言坊は常に清掃や細やかな手入れが行き届いている。

関連シート

- (8-2) 畑家墓所と頼政塚
- (10-7) 水鳥の祭
- (12-1) 四谷義田稲荷神社
- (13-1) 汐留稲荷
- (32-3) 池上幸豊

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-3

わかみやはちまんぐう・わかみやきょうどしりょうしつ 若宮八幡宮・若宮郷土資料室



写真提供：若宮八幡宮・若宮囃子保存会

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎市大師駅前2-13-16
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya.htm (e-大師ネット／若宮八幡宮)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩1分



基礎情報

■大師地区の総鎮守。地域に密着した神社として親しまれている。御祭神は仁徳天皇。大田区の八幡塚六郷神社の氏子たちが、大師河原を開拓した際に鎮守として祀った治水と干拓の守護神。毎年8月上旬に開催される連合渡御「御輿のお山入り」は、若宮八幡宮から平間寺までの渡御で、神仏混肴の名残を今にとどめている。

■参集殿2階の郷土資料室（金山神社の民俗資料室も併設）には、かつて大師の辺りが海だった頃に使われていた漁具や海苔養殖器具、農機具、民具など様々な生活用品や文献が展示され、往時の隆盛をしのぶことができる。

■鎮守の祭りには欠かすことのできない日本を代表する民俗芸能の祭囃子。「若宮八幡宮囃子保存会」は、今は川崎市内でも数少なくなった囃子連の一つで、伝統の大師の囃子を地域に継承するため熱心な活動を続けている。

由来・エピソード

■御祭神の仁徳天皇は、淀川の治水工事を完成させたことで治水と干拓事業の守護神として崇められており、多摩川の洪水に頭を悩ませた大師河原の人々が祀ったことに由来する。一般に、応神天皇を祀る神社を八幡宮、その御子である仁徳天皇を祀る神社を若宮八幡宮といい、「若宮」という名は子どもや若者の守り神をあらわしているともいわれる。江戸時代、川崎大師平間寺に参拝する多くの人々は、万年屋脇からの大師道を通り道とし、その間に位置する若宮八幡宮は大いに賑わったという。

■境内には、天保4～5年(1833～34)に苦界(九橋)を抜け極楽浄土(川崎大師)に至る願いを込めて二ヶ領用水に架けられた九橋の最後の橋の欄干や石材、11個の石石など大師河原の歴史を伝えるものが数多く残る。また「連合渡御」以外にも春の「かなまら祭」、「夏祭り」、秋の「水鳥の祭」など季節の祭礼や、参加者が海苔つくりや挑戦できる「のりまつり」、ふいごを使い鉄つくりを再現する「ふいごまつり」など、年間を通して多くの催しが開かれている。

■かつては市内でも数多くの「囃子連」があった。大師河原には明治以降、六郷の平野惣次郎氏によって本格的に囃子が伝えられた。平野氏は目黒の洗足流(目黒囃子)、横浜の綱島流を習得し六郷に伝えた。大師河原の一部は多摩川対岸の六郷神社の氏子であったことから、祭礼時には六郷から御輿が引き船に乗せられ、笛太鼓に囃され多摩川を渡ってきたという。そして昭和はじめに六郷囃子を引き継ぎ大師河原一帯にひろめたのが平野氏の直弟子の中山安太郎氏(通称花安さん)で、大師の囃子の礎を築いたといわれる。

■若宮八幡宮囃子保存会会長の木村和治郎さんは祖父から3代にわたる囃子の担い手、継承者である。恩返し気持から20年前から六郷神社でも囃子を指導しているという。保存会会員は小中学生を中心に総勢23人。7組の親子も参加し家庭での親子の対話も活発という。大太鼓1人、小太鼓2人、笛1人、鉦(かね)1人が本来の五人囃子だが、多くの子供に体験してもらいたいと小太鼓4人の編成をとっている。太鼓3年、鉦7年、笛10年、あわせて20年かかって1人前という。月500円の会費で週2回の練習を重ね、若宮八幡宮などの祭礼や「川崎市民俗芸能発表会」でも腕前を披露している。

補足・その他

■資料室は入室無料。

■4月第1日曜日には境内社の金山神社の「かなまら祭」が行われ、10月の第3日曜日に開催される「水鳥の祭」では酒合戦の会場となる。


■境内社は、金山神社以外にも藤森稻荷神社、大鷲神社、蔵島神社が祀られている。かつては大師河原の守り神として、それぞれの地に鎮座したが、近年の再開発等によって若宮八幡宮境内に祀られることになった。また大師地区に所在する水神社、川中島神明神社、塩浜神明神社、塩浜稻荷神社、汐留稻荷神社、出来野蔵島神社、田町稻荷神社、田町蔵島神社の総鎮守でもある。

関連シート

- (6-10)中島八幡神社祭囃子
- (10-4)若宮八幡宮 神輿連合渡御
- (10-5)金山神社・金山神社郷土資料室
- (10-6)田町蔵島神社
- (10-7)水鳥の祭
- (10-8)かなまら祭
- (10-9)かわさき大師サマーフェスタ

かわさき区の宝物シート

宝物No.	わかみやちはまんぐう みこしれんごうときよ 若宮八幡宮 神輿連合渡御		
10-4			
エリア	大師地区 大師周辺	シーズン 夏	日時 8月上旬
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



写真提供：若宮八幡宮

所在地	川崎区大師駅前2-13-16
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	net2@tomuraya.co.jp
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya.htm (e-大師ネット/若宮八幡宮)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩1分



基礎情報

■毎年8月上旬に行われる夏祭りで、若宮八幡宮周辺の町内会が合同で行う名物行事。若宮八幡宮を振り出しに、24町内会にある10から20数基のお神輿が表参道・仲見世練り歩き、川崎大師の境内へと入っていく。「えいさ、おいさ」の威勢の良い掛け声で、広い境内がたくさんのお神輿と、担ぎ手・見物人たちの熱気につつまれる。

■若宮八幡宮は大師地区の総鎮守で、地域に密着した神社として親しまれている。御祭神は仁徳天皇。大田区の八幡塚六郷神社の氏子たちが、大師河原を開拓した際に鎮守として祀った治水と干拓の守護神である。

由来・エピソード

■若宮八幡宮にて一同の安全を祈願した後、裏若連（大師中町）、大師睦隆盛会（大師町）、臺若連（台町）、本むら睦（大師本町）、元気印の子供神輿、巖島睦連（巖島神社）、藤崎町内会、大師駅前町内会など、地元24町内会にある神輿が連続して表参道・仲見世を歩いていく。通りを通過する神輿の数は、10数基から多い年には25基にもなるという。担ぎ手、神輿、地元民、観光客で参道が埋め尽くされるなか、各町の担ぎ手たちは活気を競い合い、かけ声とともに神輿を激しく揺すっていく。豪華に飾られた神輿が激しく、次々と渡御していく様子は壮観である。

■連合渡御は昭和60年(1985)、大師中町町内会会長、川上光勇氏の発案で始まった。大師中町町内会は、神輿新調に伴い、川崎大師平間寺の開眼を受けた大日如来像を若宮八幡宮神霊と共に神輿に据えて奉祀し、町内会神輿を若宮八幡宮から川崎大師へお山入りする計画を立ち上げた。それに周辺の町内会も加わって、夏祭りを目前に控えた同年7月に中町町内会を先達とする「若宮八幡宮大祭参集町内神輿の連合渡御」実行委員会が発足した。最初の連合渡御は5町内で行われたが、会を重ねるごとに参加町内会も増加し、現在では夏祭りの一大イベントとなっている。

補足・その他

関連シート

- (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-10)川崎大師表参道
- (10-13)川崎大師仲見世通り
- (10-17)川崎大師平間寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-5

かなやまじんじゃ(かなやまじんじゃきょうどしりょうしつ)
金山神社・金山神社郷土資料室

エリア	大師地区	シーズン	春・通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：若宮八幡宮

所在地	川崎区大師駅前2-13-16
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya-8.htm (e-大師ネット/金山神社)
交通	京急川崎大師駅より徒歩約1分、若宮八幡宮内



基礎情報

- 御祭神は金山比古神(カナヤマヒコノカミ)と金山比売神(カナヤマヒメノカミ)。俗称「かなまささま」と呼ばれ、境内の各所には大きな男性のシンボルが鎮座する。子孫繁栄、夫婦円満、安産、性病除けなど、性神として広く信仰を集め、近年ではエイズ除けとしても有名。
- 毎年4月の「かなまさ祭」では男根を象った神輿が担ぎ出される。
- 資料室には鉄や石仏に関連した本や奉納されたたくさんの男根や、性風俗の絵図、人形、文献など「性」にまつわる数々の資料が展示されている。広くはヒンズー教のインド、キリスト教のヨーロッパなど世界各地の珍しい資料、歓喜佛などが集められている(入室無料)。

由来・エピソード

- イザナミノミコトが火の神を生んだ際、下腹部に大火傷を負い、これを治療したのが金山比古神と金山比売神の両神と伝えられる。もともとは鍛冶屋の神で、社殿内部には鍛冶屋の作業場が再現されており、鍛冶で使う「ふいご」や炉が置かれている。ふいごで火を起こす時の動作が男女の和合に似ていることから、夫婦円満、子孫繁栄、お産や下半身の病にご利益があるといわれている。
- 江戸時代に川崎宿の飯盛女たちの下半身の病除けの地べた祭りに端を発し、かなまさ祭りが行われるようになったと伝えられている。
- 毎年、鍛冶職人や金物を扱う会社・工場などによって神前にて祭事「ふいご祭」が11月1日に行われる。

補足・その他

- かつて金山神社は、川崎大師駅の東側にあったが、大師電気鉄道の軌道に境内地がかかってしまうことから若宮八幡宮の境内に遷座された。
- 社殿は、平成11年(1999)の建て替えにあたり、鉄をイメージし外側を鉄板でおおい、黒1色の一辺約3mの正八角形、高さが8mの吹き抜けで、一般的な「神社」とは異なる個性的な社殿となった。内部も床の半分を土を固めた土間として仕切り、正面中央部に「ふいご」と「炉」をおき、金床を埋め込んで鍛冶屋の作業場を再現してある。

関連シート

- (5-6)金床(福嶋鐵工所)
- (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-8)かなまさ祭
- (18-3)ふいご(近藤鐵工所)

かわさき区の宝物シート

宝物No.	たまちいつくしまじんじゃ
10-6	田町巖島神社

たまちいつくしまじんじゃ 田町巖島神社



昭和29年の田町河岸の風景

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物

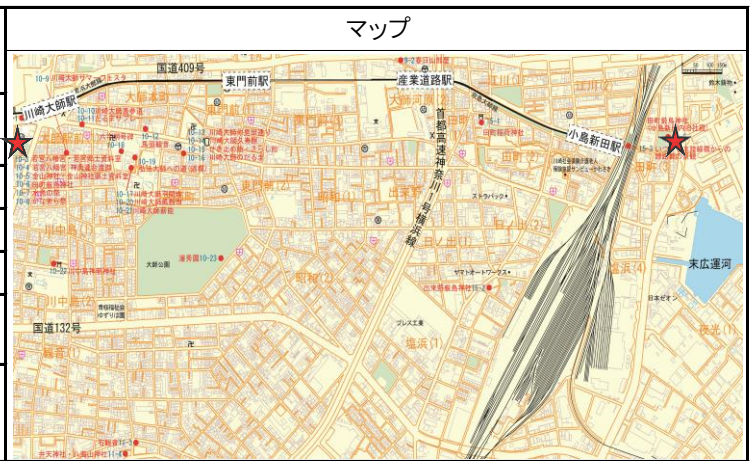


小島新田公園内に残る旧社殿



写真提供：小串嘉男氏/NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区大師駅前2-13-16 若宮八幡宮参集殿内
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya-5.htm (e-大師ネット/若宮八幡宮)
交通	京急大師線川崎大師駅から徒歩1分



基礎情報

■明治4年(1871)に大師の海での海苔養殖がはじまって以来、海苔の豊作と海難防止を祈願する海苔弁天として崇められた。御祭神は市杵嶋比売神(イツクシマヒメノカミ)。
 ■元々は田町河岸に祀られていた。田町河岸は現在の田町3丁目にあたり、海へと濡が続き、多くの海苔採り舟(ベカ舟)や機械船が往来しにぎわっていた。やがて海苔養殖が終焉し、川崎漁協は昭和48年(1973)4月に解散した。それによって巖島神社護持の後継者が途絶えるのを危惧した有志によって、昭和61年(1986)4月6日、若宮八幡宮参集殿郷土資料室内に遷座された。田町3丁目の小島新田公園内には旧社殿のみが今も残り、川崎の海苔養殖の記憶をとどめるためにも再びこの地に御神体を祀ることも望まれている。

由来・エピソード

■御神体は、伝教大師(最澄)の作と伝えられ、大黒天、多門天を従えた三座形式の弁天様が波のレリーフの上に座っている。その下に十五童子(二体は欠損)が戯れ、さらに馬や俵を積んだ舟、干両箱が飾られている。
 ■明治になると旧暦正月11日に例祭が執り行われるようになった。朝、別当寺である殿町の法榮寺に御神体を迎えに行きリヤカーに乗せて町内を一巡後、巖島神社に安置してお祭りを行った。田町河岸の水面上には笹竹を立て注連縄を張って御神酒が捧げられ、夕刻まで飲食をして楽しんだという。
 ■田町河岸では船による長十郎梨の出荷も盛んに行われた。

補足・その他

--

関連シート

- (10-3) 若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (14-3) 法榮寺
- (15-1) 田町稻荷神社
- (15-2) 出来野巖島神社

かわさき区の宝物シート

宝物No.	すいちょうのまつり
10-7	水鳥の祭

エリア	大師地区	シーズン	秋
	大師周辺	日時	10月の第3日曜日

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



「大蛇丸底深」の墓塔
(池言坊)



水鳥の祭350周年記念碑

写真提供：若宮八幡宮・水鳥の祭実行委員会

所在地	川崎区大師駅前2-13-16 (若宮八幡宮)
問い合わせ	水鳥の祭実行委員会 (石渡燃料店)
TEL	044-288-5885 (水鳥の祭実行委員会)
FAX	044-288-5861 (水鳥の祭実行委員会)
E-mail	
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya-6.htm (e-大師ネット/若宮八幡宮)
交通	京急大師線川崎大師駅よりすぐ



基礎情報

■「川崎方」池上太郎左衛門幸広とその一族15名。対するは「江戸方」茨木春朔とその仲間17名。両軍の間で繰り広げられる壮烈な「大師河原の慶安酒合戦」－『水鳥記』に描かれた史実を350年後の現代に再現した水鳥の祭が毎年10月の第3日曜日に開催される。実在の登場人物に扮し、役者顔負けの派手な衣装を身にまとった参加者が大師周辺の商店街を練り歩き、大盃で日本酒をぐいぐいと飲み干す「酒合戦練り行列」や「口上合戦」では多くの見物客から喝采と野次が浴びせられ大いに盛り上がる。

■最終決戦場となる若宮八幡宮では「和睦の舞」が披露され、ふるまい酒もあり、投げ餅が行われる。

■水鳥の名の由来は、「酒」という字がサンズイ<水>と酉<鳥>から成っていることから付けられたという。平成7年(1995)の第1回開催以降回を重ねている。

由来・エピソード

■川崎大師・平間寺では池上新田を開拓した、池上太郎左衛門、大蛇丸大蛇丸底深一門15名が待ち受け、そこへ江戸の医者で儒学者の茨木春朔(六位酒官、地黄坊樽次)の一族仲間17名が酒合戦をする為、平間寺に乗りこみ、口上合戦をしたのち大山門前で酒合戦。そして春宮八幡宮へと向う。その道々商店の店頭で、大師駅前広場で、ごりやく通り商店会で全国の蔵元より提供される銘酒で酒合戦をしながら、水鳥饅頭を配りながら地域一丸となったまさに参加型のイベントである。

補足・その他

■平成11年(1999)5月、池上家32代目幸政・よ志子夫妻によって酒合戦「350周年記念碑」が若宮八幡宮境内に建立された。

■リハーサル1回のみというぶっつけ本番に近い素人役者のアルコール入り口上合戦が“最大の見どころ”といわれている。

■練り行列役者、口上合戦助っ人の一般の参加申込可能。原則として役者は1ヶ月前まで。

関連シート

(10-2)池言坊
(10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
(10-10)川崎大師表参道
(10-13)川崎大師仲見世通り
(10-17)川崎大師平間寺
(32-3)池上幸豊

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-8

かなまらまつり
かなまら祭

エリア	大師地区	シーズン	春
	大師周辺	日時	4月の第1日曜日

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：若宮八幡宮

所在地	川崎区大師駅前2-13-16
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya.htm (e-大師ネット／若宮八幡宮)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩1分



基礎情報

■4月の第1日曜日に開催される金山神社のお祭り。男根をかたどった3基の神輿がかつぎ出される。子授けや縁結び、現在ではエイズ除けの祭りとしても有名で、外国人観光客も大勢訪れる。

由来・エピソード

■元々金山神社は鍛冶の神様を祀る神社であったが、江戸時代に川崎宿の飯盛女（遊女）たちの病除けに端を発し、かなまら祭りが行われるようになったという。春になると草木が芽を出して再生することから、自分たちの体の再生を願って飯盛女たちが地面にゴザを敷いて下半身の病除けを祈願した。
■海外の様々なメディアで取り上げられたこともあり、「かなまら祭」のおおらかでひらかれた雰囲気から、外国人にも人気があり「うたまろフェスティバル」として大師の風物詩となっている。

補足・その他

■当日行列に参加希望の方は11時頃までに受付をすると衣装を貸してもらえます。
■老若男女、日本人外国人みんなが楽しめるお祭り。

関連シート

(10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
(10-5)金山神社・金山神社郷土資料室

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-9

かわさきだいしさまーふえすた かわさき大師サマーフェスタ



エリア	大師地区	シーズン	夏
	大師周辺	日時	海の日(7月第3月曜)

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



写真提供：かわさき大師サマーフェスタ実行委員会

所在地	京浜急行大師線「川崎大師」周辺
問い合わせ	かわさき大師サマーフェスタ実行委員会
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	京急大師線川崎大師駅下車ほか



基礎情報

■毎年海の日に大師地域周辺で開催される一大イベント。夏の風物詩として地元に着定している。メインイベントの「名所めぐりウォークラリー」は、毎年1000人程度の参加者を集めている。

由来・エピソード

■大師地区周辺の商店会からなる「大師地区商店街連合会」（川中島共栄会・大師駅前商栄会・表参道売出会・大師本通り商店会・東門前駅通商店街・大師銀座会・大師銀座商店街・出来野商店会）が協賛。
 ■名所めぐりウォークラリーは地域の住民、特に小中学生に大師地区の歴史の学習の場を提供、地元に着定と誇りを持ってもらうとともに、地域活性化を目的としたサマーフェスタのメインイベントである。川崎大師平間寺、明長寺、若宮八幡宮、汐留稲荷など計29箇所にもものぼる大師周辺の名所・旧跡を歩いて巡り、スタンプを集めると若宮八幡宮で行われる抽選会に参加できる。
 ■その他、各ポイントで俳句づくり、おたのしみくじ、伝承のあそび（伝承遊び・缶ポックリ・紙トンボ・輪投げなど）などが開かれ、さらに各商店会ごとに趣向をこらした様々なイベントが催される。

補足・その他

関連シート

- (10-3) 若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-10) 川崎大師表参道
- (10-17) 川崎大師平間寺
- (10-20) 川崎大師風鈴市

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきだいしおもてさんどう
10-10	川崎大師表参道

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区大師駅前1丁目～大師本町・大師町
問い合わせ	川崎大師表参道商業協同組合
TEL	044-288-4437 (株住吉)
FAX	
E-mail	
URL	http://www.e-daishi.net/ (e-大師ネット)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩5分



基礎情報

■京急川崎大師駅を出て、左手に見える厄除門をくぐり川崎大師へ続く古くからの参道。正月三ヶ日には300万人を超える参拝客でにぎわう。沿道には名物の久寿餅屋や飴屋、縁起物のだるま屋など、さまざまな店が軒を連ねている。

由来・エピソード

■昔、江戸から川崎大師までの距離は、五里（約19.6km）といわれ足の達者な参詣客は日帰りであったが、普通の参詣客は無理であったことから、表参道には大きく立派な旅館や料理屋が威容を誇り、みやげ物屋などの商店はそれらの建物にはさまれるように並んでいたという。今も続く、「恵の本」といった大料亭では、はまぐりと野菜の味噌仕立ての大師一の名物「蛤鍋(はまなべ)」が人気を誇った。唯一「恵の本」では今でも貴重な江戸前（金沢八景産）の蛤鍋を提供している。

■仲見世通りも含め、現在の姿が形づくられたのは明治20年代のこと。明治32年(1899)六郷橋・大師間に大師電気鉄道が開通すると参詣客は増え門前町は大いに賑わったという。大戦時の空襲によって往時の町並みはほとんどが消えてしまったが、戦後に表参道商業協同組合ができて、表参道と仲見世通り全体の発展をはかる取り組みがはじめられ、今日の活気あふれる姿が取り戻された。

補足・その他

関連シート

- (10-12)馬頭観音
- (10-13)川崎大師仲見世通り
- (10-14)川崎大師久寿餅
- (10-15)せき止め飴・さらし飴
- (10-16)川崎大師のだるま
- (10-17)川崎大師平間寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.	だるまさがれー
10-11	だるまサブレー



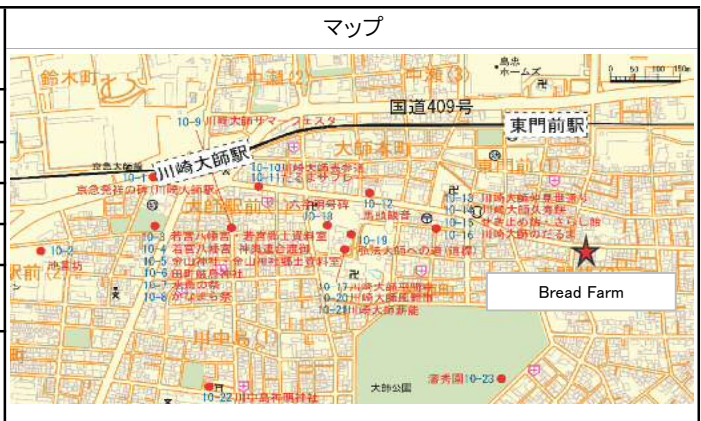
だるまサブレー (仙臺屋)

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	Bread Farm HATOYA: 川崎市東門前2-5-5 仙臺屋総本店: 中原区上平間1152
問い合わせ (下記参照)	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	



基礎情報

■だるまの形をしたサブレーで、川崎大師平間寺で護摩祈願の際にお茶請けとして出される人気のお菓子。大師の土産品として子供からお年寄りまで広く親しまれ、変わらない味で現在まで続いているロングセラー商品である。

由来・エピソード

■だるまサブレーは戦後、昭和29年(1954)に誰にでも愛される味で日持ちがする菓子として製造が開始された。その後、川崎大師平間寺より「厄除」使用のお墨付きを受け、「厄除けだるまサブレー」としても販売されている。川崎大師周辺では、だるまサブレーを扱う店は意外と少なく、主に川崎大師の表参道にある「Bread Farm HATOYA」、中原区上平間の「仙臺屋総本店」が知られている。

■だるまサブレーは、昭和52年(1977)全国菓子大博覧会第19回大会で無鑑査賞(仙臺屋総本店)を受賞している。また、「神奈川県指定銘菓」や「かわさき名産品2010」に認定されている。神奈川指定銘菓とは、第二次世界大戦中に伝統菓子の製造技術の伝承を目的に、県が「特種菓子」を指定し、特別に原料を配給したことに端を発するもので、昭和25年(1950)から概ね2年一度、県内の銘菓・良菓の中から特に優秀なものが厳選され、平成22年(2010)3月現在では147点が指定銘菓として登録されている。

補足・その他

■HATOYA: TEL:044-288-4023
京急大師線・東門前駅下車徒歩5分、営業時間8:00~18:30・日曜・月曜・祝祭日休業
■仙臺屋総本店: TEL:044-522-8888
JR南武線鹿島田駅下車徒歩5分、営業時間9:00~17:00・火曜・日曜定休

関連シート

(10-10)川崎大師表参道
(10-16)川崎大師のだるま
(10-17)川崎大師平間寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-12

ばとうかんのん
馬頭観音



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師本町8-17
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	http://www.e-daishi.net/batou.htm (e-大師ネット)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩4分



基礎情報

■表参道を川崎大師平間寺に向かうと左側に小さな祠が見えてくる。ご本尊は木造の馬頭観音。畜生道に落ちた衆生の救済にあたりとされ家畜の守護仏である。

由来・エピソード

■年代は不明だが、200年以上前の作と伝えられている。この辺りが川崎大師参詣の際の籠や馬の乗降場所であった。
 ■力の強い馬でさえ綱一本で繋ぎとめられることから、赤い布に好きな人の名前を書いて奉納すると願いがかなうといわれているが、縁結びは最近の言い伝えらしく、元来は足の神様、厄除け身の上安全の神様とされた。
 ■川崎競馬の開催日には馬主や厩務員などが馬の健康を願い手を合わせに訪れるという。

補足・その他

関連シート

- (6-1)川崎競馬場
- (10-10)川崎大師表参道
- (10-17)川崎大師平間寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきだいしなかみせどおり
10-13	川崎大師仲見世通り

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：川崎大師仲見世通会

所在地	川崎区大師町（表参道と平間寺を結ぶ道）
問い合わせ	川崎大師仲見世通会
TEL	044-288-4437 (株)住吉
FAX	044-288-0303 (株)住吉
E-mail	
URL	http://www.e-daishi.net (e-大師ネット)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩5分



基礎情報

■川崎大師の参詣客をはじめ、地元の人々にも広く親しまれており、法号「南無大師遍照金剛」や、十二支の守り本尊が彫金された街路灯のプレートもみどころ。食事処や、昔からの名物「久寿餅」、「せき止め飴」、「開運だるま」はもとより、新しく加わった名物を扱う土産店が軒を連ね、益々のにぎわいを見せている。

由来・エピソード

■江戸末期の『江戸名所図会』には、仲見世通りの様子として「かるやき・千代の飴・翁飴・くず餅・かりんとう・はまぐり・貝類・焼きハゼ・大森細工・白酒・ふぐちょうちん」の店々が描かれている。大師周辺にまだ農家が多かった頃までは大師名物として大森細工（麦わら細工）の土産物屋が多く参詣客の目を楽しませていた。大師の海で獲れた大師海苔やハゼ甘露煮、貝細工など海産物も多かったといい、また、かつて鈴木町にあった白酒の醸造元では、酒粕に六郷川沿いの名産であったウリを漬けた奈良漬も人気があったという。

■昭和初期の松竹蒲田の看板女優「川崎弘子」は、川崎大師近くに生まれ、仲見世の土産店で働いていたところをスカウトされた。芸名は苗字が出生地、名前は弘法大師から一字を貰ったという。名付け親となったのは、川崎河港水門を設計した当時の内務省多摩川改修事務所長であった金森誠之氏であった。

■「トントコ」とリズムカルに鳴り響く飴を切る音、参道のにぎわいの声が、平成8年(1996)に「日本の音風景百選」に選ばれた（『川崎大師の参道』、環境庁認定・日本の音風景検討会選定）。

補足・その他

--

関連シート

- (10-10)川崎大師表参道
- (10-14)川崎大師久寿餅
- (10-15)せき止め飴・さらし飴
- (10-16)川崎大師のだるま
- (10-17)川崎大師平間寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきだいしくずもち
10-14	川崎大師久寿餅



エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎大師表参道・仲見世通り
問い合わせ	川崎大師久寿餅製造販売同業組合
TEL	044-266-4668 (有) 住吉屋総本店
FAX	044-277-8408 (有) 住吉屋総本店
E-mail	
URL	http://www.kuzumochi.com/kumiai.htm (久寿餅屋紹介マップ(川崎大師久寿餅製造販売同業組合))
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩5分



基礎情報

- 川崎大師の定番土産である久寿餅。でんぷんの淡白な味と黒砂糖の甘い蜜、きな粉の香ばしさがほどよくからみあって昔懐かしい味わいを醸し出している。表参道と仲見世通りで計11軒の久寿餅屋が軒を連ねている。
- 昭和60年(1985)「神奈川名産100選」のひとつに選ばれている。元々の「葛餅」の由来は、万葉集の時代、秋の七草の一つである葛の根っこから葛粉が作られ、これをこねて餅にしたのがはじまりと考えられている。五穀の産の少ない山間部では主食の一つ、または補食の糧として後生まで永く用いられた。室町時代に東海道の日坂宿で名物となった「わらび餅」も葛の粉と合わせて作ったものとみられている。江戸後期にはさらに工夫が凝らされ、主に小麦粉を原料に葛餅以上の味を持つ「くず餅」が製造されるようになり、江戸っ子の好みにも合せて好評を博したといわれる。川崎とその付近は古来から麦の産地として知られ、昔も今も川崎大師の「久寿餅」は揺るぎない名産品となっている。

由来・エピソード

- 天保の頃(1830~40年)、大師河原村に久兵衛という男が住んでいた。ある風雨の強い夜、納屋に蓄えていた小麦粉が雨で濡れてしまい、久兵衛は仕方なくこれをこねて樽に移し、水に溶いて放置しておいた。翌年、飢饉が起こり、樽に移した小麦粉のことを思い出した久兵衛は、樽の底に醗酵した純良なでんぷんが沈殿しているのを発見する。これを加工して蒸し上げたところ、風変わりな餅ができ上がり、時の三十五世隆盛上人に試食してもらったところ、隆盛上人は、淡白にして風雅なその味を絶賛し、川崎大師の名物として広めることを薦めたという。
- 隆盛上人の提案により、餅の名は久兵衛の「久」の一字と、無病長寿を祈念した「寿」の一字とを合わせて、久寿餅と名付けられた。以来、川崎大師では葛餅を久寿餅と記すようになった。
- 以前は川崎大師のお坊さん達もお刺身の代わりに久寿餅を食べていたといわれる。戦後の食糧難の時代は久寿餅の中に塩豆を入れて食べたり、久寿餅にカレーのルーをかけて空腹を満たした事もあったという。

補足・その他

- 川崎大師表参道商店街、仲見世通りの各店にて販売。
- 久寿餅は、澱粉という性質上、時間がたったり、温度が低いと堅くなる特徴があるため、冷蔵庫への保存には適さず、常温で涼しいところに保管する方がよい。また、黒蜜は暖かいお部屋に置いておくと、粘度が緩くなる場合があるので、蜜がお餅にからみづらくなって、美味しさが半減してしまうため、久寿餅同様、涼しいところが最適。

関連シート

- (10-10)川崎大師表参道
- (10-13)川崎大師仲見世通り
- (10-15)せき止め館・さらし館
- (10-17)川崎大師平間寺
- (29-3)せいいい

かわさき区の宝物シート

宝物No.	せきどめあめ・さらしあめ
10-15	せき止め飴・さらし飴

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



仲見世での開業当時（昭和11年頃）の松屋総本店
写真提供：松屋総本店



所在地	川崎区大師駅前1丁目～大師本町・大師町 (表参道～仲見世通り)
問い合わせ	川崎大師表参道商業協同組合
TEL	044-288-4437 (株住吉)
FAX	
E-mail	
URL	
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩2分



基礎情報

- 川崎大師のお土産として有名な手づくりの飴。せき止め飴は水飴に薬草エキスやハッカなど加えたもので、さらし飴は昔ながらの製法の切飴で「たんきり飴」として有名。
- 仲見世通りや表参道には老舗の3店が本支店を構え、製造実演販売を行っている。松屋総本店と松屋の飴総本舗は明治元年(1868)に東京深川で創業、昭和11年(1936)に仲見世通りに出店した。評判堂は昭和53年(1978)に出店。
- 昭和60年(1985)には「川崎大師のせき止め飴・さらし飴」として神奈川名産100選に選定されている。

由来・エピソード

- 「せき止め飴」は、松屋の初代・宮崎米吉氏が煮詰めた飴に家伝の薬草エキスを加えた飴をつくったのがはじまりで、明治元年(1868)に深川・門前仲町で「松屋の飴」の屋号で創業した。柴又帝釈天への分店を経て昭和11年(1936)に盛況を呈していた大師門前に「深川不動尊 松屋の飴支店」を出店。戦災による店の焼失から休業を余儀なくされたが昭和39年(1964)に「松屋総本店」の屋号で再開業を果たした。暖簾分けして「松屋の飴総本舗」も生まれた。昭和16年生の四代目・宮崎善雄氏は20歳で松屋を継いだという。世の変遷とともに製法や風味は少しずつ改善・多様化してきたが薬草類の配合については一切変えていないという。
- 「さらし飴」は、麦芽で糖化された風味豊かな水飴が原料で、煮上がった飴を何度も練り、気泡が混入して白色になった飴。飴を切る工程から「厄を切る」という意味も込められている。仲見世通りにはいつもトントントンというさらし飴を切る音が響き渡っている。このリズムカルに鳴り響く飴を切る音、そして参道のにぎわいの声、平成8年(1996)に「日本の音風景百選」に選ばれている(『川崎大師の参道』環境庁認定・日本の音風景検討会選定)。自動でトントコ飴切りを行う松屋の飴総本舗の「飴切り人形」は、不思議な魅力があり一緒に記念撮影をする観光客も多い。
- 「評判堂」のHPでは飴切りの動画や店頭のライブカメラによる仲見世通りの様子(川崎大師の参拝状況の確認に便利)を見ることが出来る。

補足・その他

- 松屋総本店 川崎区大師町4-39 (仲見世本店) TEL:044-277-7711
<http://www.tontoko.com>
- 松屋の飴総本舗 川崎区大師町5-1 (仲見世店) TEL:044-277-5318
<http://www.e-daishi.net/0442775318.htm>
- 評判堂 川崎区大師町12-9 (川崎大師本店) TEL:044-266-5825
<http://www.hyobando.co.jp/>

関連シート

- (10-10)川崎大師表参道
- (10-13)川崎大師仲見世通り
- (10-14)川崎大師久寿餅
- (10-17)川崎大師平間寺
- (29-3)せいいい

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきだいしのだるま
10-16	川崎大師のだるま

エリア	大師地区	シーズン	通年・冬
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



だるまで埋め尽くされた店内（高橋太一商店）

今でも店頭に大事に飾られている
ずっしりと重い木型（かどや開運堂）



所在地	川崎大師仲見世通り・表参道
問い合わせ	川崎大師だるま会
TEL	044-266-6148（かどや開運堂）
FAX	
E-mail	
URL	http://www.e-daishi.net/list.php?cid=4 （川崎大師タウンネット／お店・商店街ガイド(だるま)）
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩6分



基礎情報

- 大師名物の土産物のひとつ、縁起物の代表「厄除・開運だるま」。江戸時代、元々の流行病除けから厄除け・家内安全・商売繁盛・五穀豊穡・大漁祈願等の縁起物として庶民の間で流行するようになり、1年ごとに一廻り大きなだるまに買い代えていく慣習も生まれ、日本人の心の支えとして定着していった。現在でも事業繁栄・工場安全・選挙必勝祈願などさまざまな目標達成祈願の縁起物として親しまれている。祈願の初めに男性は左眼、女性は右眼を書き入れ、願いがかなったときに両目を入れて開眼し満願成就をはたすのは大師のだるま特有の慣習という。
- 仲見世通りや表参道では、多くの開運だるまを取り扱う店が軒を連ね、1年中どの店でもところ狭しとだるまが並ぶ。選挙用必勝だるまや企業・運動部で飾る特大だるまの名入れの注文を受ける店も多い。
- 「川崎大師だるま会」は昭和20年代後半に5～6軒が集まって設立、現在は12軒が参加し、毎年当番店を決めている。昭和30年代前半の好景気の頃は、客の顔を見る暇もないほど飛ぶようにだるまが売れたという。今でも毎年8月頃から正月に向けての準備で忙しいという。

由来・エピソード

- 川崎大師平間寺の厳肅な密教儀式である「お護摩焚き修行」。だるまの赤い彩色と姿は、お護摩焚きの燃えさかる「火」をあらわし、上へ上へと昇る火のごとく運氣上昇の願いがこめられている。邪悪なものを焼き払い、人々の煩惱を消滅させる「火」も意味している。平間寺では毎年12月のご縁日「納めの大師」にて、だるまのお焚き上げ供養が行われる。
- 江戸時代の頃、だるまは疱瘡除け、魔除けの力がある玩具として子供への病気見舞いに格好の品であった。疱瘡神が嫌う赤色で覆うと、病状が軽くなり、痘跡も残りにくいと信じられていたという。元文元年(1736)頃には現在のだるまの原型であった「疱瘡除けだるま」が作られていたとみられている。戯作者で医学にも通じていた滝沢馬琴の孫が疱瘡を患った際に、馬琴は医薬を処方する一方で、赤の木綿の着物や頭巾、疱瘡除けの赤絵など、孫の周りを赤づくめにしたと伝えられている。こうした処置は中国医学の教えによったというが、実際に赤外線によって疱瘡が悪化しやすく、赤外線を遮る赤色を使うと悪化を防止できることが、1894年にデンマークの医師によって立証されているという。
- また、だるまの起源には、江戸中期に流行した倒しても起き上がる「起き上がり小法師」という玩具に、禅宗の高僧「達磨大師」が座禅を組む像を模してつくられたのがはじまりという説もある。達磨（ボーディダルマ）は、禅宗を開祖し150歳で入滅したと伝わる仏教の僧侶で、4世紀終わり頃に、南天竺国（南インド）の第三王子として生まれた。達磨はインドから中国へと渡海し、洛陽郊外の嵩山少林寺の洞窟内で9年間壁に向かって座り続け、悟りを開いたと伝わる。この「面壁九年」の故事にもとづき、「七転び八起き」の縁起をかついだ起き上がり小法師に達磨の顔を描くようになった。主に商人らの信仰によって日本各地に普及したとされ、赤い彩色は達磨が赤い僧衣を着ていたことに由来するといわれるものである。

補足・その他

- だるまには大きく2つの系統がある。「武州だるま」（越谷・岩槻）は江戸時代より川崎大師のだるまとして有名。全体に丸みをおび、鼻筋が通っているのが特徴。小さいだるまは髭が「鶴」、眉が「稲穂」をかたどり、大きいものは眉が「亀」になる。「上州だるま」は高崎だるまとして有名で、逆に髭が「亀」、眉が「鶴」をかたどっている。
- 40年ほど前までは木型に和紙を貼ってだるまの生地が作られていたが、現在は金型で成型されている。

関連シート

- (10-10)川崎大師表参道
- (10-11)だるまサブレ
- (10-13)川崎大師仲見世通り
- (10-17)川崎大師平間寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-17

かわさきだいしへいけんじ
川崎大師平間寺



写真提供：川崎大師

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師町4-48
問い合わせ	川崎大師平間寺
TEL	044-266-3420
FAX	044-277-8163
E-mail	
URL	http://www.kawasakidaishi.com/ (川崎大師平間寺)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩8分



基礎情報

- 大治3年(1128)建立。厄除けをはじめ、家内安全、交通安全などの御利益で有名な寺院。正式には『真言宗智山派 大本山金剛山金乗院平間寺』といい、「川崎大師」または「厄除弘法大師」として、昔から篤い信仰を集めている。
- 本尊は厄除弘法大師像。
- 初詣参拝者数は全国上位を誇り、さまざまな年中行事で賑わっている。

由来・エピソード

- 尾張の国の住人、平間兼乗(ひらまかねのり)は無実の罪で故郷を追われ、川崎で漁獵を生業として貧しい暮らしをしていた。兼乗が厄年のある夜、夢枕に立った高僧のお告げにより、海の中から弘法大師像を引き揚げ、小庵を建て、これを祀り、供養したといわれている。その後、高野山の高僧尊賢(そんけん)上人が、諸国遊化の途中に兼乗のもとに立ち寄った。尊賢上人は、この像の尊さと像とのいきさつの不思議さを感じ入り、兼乗とともに大治3年(1128)に寺を建立。兼乗の姓である「平間」にちなみ平間寺と名付けた。開基は尊賢上人である。
- 本尊が厄除けのご利益で知られるのは、兼乗の夢枕に立った高僧が、「これを供養して、功德を諸人に及ぼさば、汝が災厄変じて福德となり、諸願もまた満足すべし」と告げたことによる。兼乗は厄年にも大厄にあわなかっただけでなく、後に無実の罪が晴れ、無事に国へ帰ることができた。
- もともとは地域の人々の信仰に支えられた寺であったが、近世に入り厄除けの靈験があるととして諸国にその名が伝わり、江戸中期には庶民から武士階級にまで信仰が広まった。そして11代将軍徳川家斉が公式参拝したこと、さらに人気が高まった。
- 総本山は京都東山七条にある智積院。

補足・その他

- 年間行事
 【1月】元朝大護摩供／初大師 【2月】節分会・豆まき式／星まつり／涅槃会／福德稲荷大祭・牛まつり／聖徳太子年祭 【3月】御影供まつり 【4月】花まつり週間／ご供茶式(裏千家家元勤仕)／清瀧権現年祭／大般若経転読会 【5月】川崎大師子どもフェスタ／御本尊弘法大師降誕奉祝会／春大祭／救世観音年祭／まり塚まつり／二箇大法要／ご献茶式(宗徧流家元勤仕)／川崎大師薪能 【6月】興教大師降誕会 【7月】産業安全・災害絶滅大祈禱会／川崎大師風鈴市 【9月】稚児大師年祭／秋大祭／遍路大師年祭／二箇大法要 【10月】茶笏供養／ご供茶式(江戸千家家元勤仕) 【11月】七五三祝子育祈禱月間／密戯流・遍照講川崎大師奉詠大会／薬師如来・十二神将年祭 【12月】成道会／陀羅尼会／納め大師／除夜法楽 など

関連シート

- (10-13)川崎大師仲見世通り
- (10-18)六字名号碑
- (10-19)弘法大師への道(道標)
- (10-20)川崎大師風鈴市
- (10-21)川崎大師薪能

かわさき区の宝物シート

宝物No.	ろくじみょうごうひ
10-18	六字名号碑

六字名号碑



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師町4-48
問い合わせ	川崎大師平間寺
TEL	044-266-3420
FAX	044-277-8163
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/ (川崎市文化財案内)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩8分



基礎情報

- 川崎大師平間寺の境内に建てられた名号塔。阿弥陀如来への信仰を表す「南無阿弥陀仏」の六字が陰刻されている。大本堂隣の中書院の庭にあり、平間寺境内で最も古い碑である。
- 川崎市の重要郷土資料に指定されている。

由来・エピソード

- 寛永5年(1628)に建立。塔身部の年号と台座の干支戊午が一致していないが、後に観心徹範なる僧によって台座が添えられたためと考えられている。
- 建立者については、次のような話が伝えられている。「信仰の篤い江戸の商人・紀伊国屋作内は、ある夜お大師様の夢を見る。翌日、作内は大師参詣からの帰り道に一本の筆を拾った。そして帰宅後にその筆を使ってみると、字の書けなかった作内が、その筆で六字の名号をすらすらと書くことができた。歓喜した作内は、これを石碑に彫って境内に建立した。」この話は、弘法大師が書の達人であることと阿弥陀信仰とが結びついてできた霊験譚であると考えられている。
- 石塔建立日と伝えられる3月21日は、弘法大師の命日とされる御影供にあたる。夢をみた日も正月2日の初夢の日になっている。宗派にとらわれない近世初期の大師信仰をうかがうことができる。

補足・その他

- 文化6年(1809)に大師を訪れた太田南畝は、著書『調布日記』に、「大師河原平間寺にいたる。去年の師走17日と26日詣でしなり。42の歳の厄とやらんいふものを除かんとて、必ず人の詣で来る所なるを、去年60にして初めて詣で、今日まで三度来れるもおかし。」と記し、つづいて境内の六字名号塔を拝し、その銘文を書きとっている。
- 境内には六字名号碑と弘法大師への道(道標)のほか、宝暦6年(1756)御三卿の一つ田安家によって奉納された宝篋印塔(ほうきょういんとう)や、天保10年(1839)川崎宿と大師門前を結ぶ大師道の道普請完成記念碑など、興味深い多くの石造物がある。

関連シート

- (10-17)川崎大師平間寺
- (10-19)弘法大師への道(道標)
- (29-1)市指定文化財

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-19

こうぼうだいしへのみち(どうひょう)

弘法大師への道(道標)



エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師町4-48
問い合わせ	川崎大師平間寺
TEL	044-266-3420
FAX	044-277-8163
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/ (川崎市内文化財案内)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩8分



基礎情報

- 寛文3年(1663)建碑。大師への参詣路を示す標識で、もともとは川崎宿の万年屋の脇、東海道から大師道への分岐点に建てられていた。戦後、平間寺境内に移された。高さ171cm、幅52cm、厚さ47cm。
- 市重要歴史記念物（昭和63年11月29日指定）。

由来・エピソード

- 寛文3年(1663)建立というのは、道標としては古く、しかも大型である。全国的に見ると道標の建立はおおむね元禄時代前後からが多い。300年以上にわたって風雪に耐え、摩滅や破損がほとんど見られないことは特筆に値する。
- 江戸時代、寛文・延宝の頃になると、にわかに街道の往来は賑やかとなり、川崎宿も大山講や富士講、伊勢参りなどの旅人がたくさん訪れるようになった。街道筋も整備が進み、各所に道標が建てられるようになる。はじめは木製のものが多かったが、石仏や墓石の造立の機運を反映し、石造の道標が造られるようになったと思われる。通常、道標は三叉路や十字路など道の分岐点に建てられ、それぞれの道の行く先を示すものであるが、この道標は大師への参詣路のみを示している点が特徴的である。また、川崎市内には道標としての石造物は72基が確認されているが、平間寺の道標は最古のものとされている。

補足・その他

- 道標は山状角柱で材石は安山岩である。四面に以下の刻銘がある。
正面： 大師河原
従是弘法大師江之道
災厄消除
左側面：こうぼう大し江のみち
右側面：こうぼう大し江のみち
裏面： 寛文三年癸卯曆五月廿一日

関連シート

- (10-17)川崎大師平間寺
- (10-18)六字名号碑
- (29-1)市指定文化財

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきだいしふうりんいち
10-20	川崎大師風鈴市

エリア	大師地区	シーズン	夏
	大師周辺	日時	7月20日、21日前後

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：川崎大師



所在地	川崎区大師町4-48
問い合わせ	川崎大師平間寺
TEL	044-266-3420
FAX	044-277-8163
E-mail	
URL	http://www.kawasakidaishi.com/event/furin.html (川崎大師平間寺／風鈴市)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩8分



基礎情報

■毎年7月の20日、21日を中心に、平間寺境内特設会場で開催される風鈴の展示即売。日本全国の風鈴が一堂に揃う。

由来・エピソード

■暑い夏に涼しい音を感じることができる川崎大師の夏の風物詩。南部風鈴、江戸風鈴、金の風鈴など特色のある全国各地の風鈴にふれることができる。平成27年には第20回を数え、全国47都道府県から900種類3万個の風鈴が出品された。1000円前後を中心に500円～60,000円という価格で販売されている。川崎大師オリジナル「厄除だるま風鈴」も販売されている。
 ■期間中、大師地区町内会踊り子連による「川崎大師やくよけ風鈴市音頭」、「風鈴市祝い唄」の踊り練り込みも恒例となっている。

補足・その他

関連シート

(10-17)川崎大師平間寺
 (10-21)川崎大師薪能

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきだいしたきぎのう
10-21	川崎大師薪能



エリア	大師地区	シーズン	春
	大師周辺	日時	5月下旬

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師町4-48
問い合わせ	川崎大師平間寺
TEL	044-266-3420
FAX	044-277-8163
E-mail	
URL	http://www.kawasakidaishi.com/event/may.html (川崎大師平間寺/5月の行事)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩8分



基礎情報

■ 風薫る5月の夕べに開催する「川崎大師薪能」は、川崎市の文化芸術の一つとして、市民はもとより京神間の多くの人々から初夏を彩る風物詩として親しまれている。昭和49年(1974)の大開帳奉修を記念し上演された。観世流宗家一門による能が披露され、辺り一帯は幽玄の世界へと一変する。

由来・エピソード

■ 「薪能」とは、野外で行われる能や狂言の舞台公演のこと。元来、神仏に薪をお供えする儀式であったが、やがて華やかさを増し薪猿楽から薪能となった。長く民衆から支持され、全国各地でそれぞれ特色を加えながら発展し、江戸時代に最盛期を迎えた。明治維新を境に長く不遇の時代が続いたが、近年薪能の魅力が再認識され、各地で催されるようになった。

■ 社寺境内や御苑、城跡など、静かで広い敷地があつてかがり火を焚くことができる場所で行なわれる。野外という解放感もあつて、堅苦しさはなく、能に慣れていない初心者でも気軽に楽しむことができる。

補足・その他

関連シート

- (10-17)川崎大師平間寺
- (10-20)川崎大師風鈴市
- (2-1)川崎能楽堂

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわなかじましんめいじんしゃ
10-22	川中島神明神社



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		

所在地	川崎区川中島1-12-12
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「川中島」下車徒歩3分



基礎情報

■御祭神は天照大神。境内には道祖神のお堂があり、「歳（さい）の神」と「白衣観音石像」が安置されている。赤子を抱いた姿の「歳の神」は咳の神様として風邪や百日咳、インフルエンザなどに御利益があることで有名。

由来・エピソード

■創建は建武年間(1334～1335年)と伝えられる古い神社。昭和10(1935)年の600年祭に奉納された鳥居や、当地出身である昭和初期の大政治家、鈴木喜三郎翁の揮毫による600年祭記念碑が残っている。
 ■「歳の神」には、風邪などの予防や快癒を祈願する人が大勢訪れた。お堂に奉納されている麻ひもを借りて首に巻き願掛けする。子育て地蔵姿のものは大変珍しいという。

補足・その他

関連シート

(10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
 (14-2)水神社

かわさき区の宝物シート

宝物No.	しんしゅうえん 瀋秀園		
10-23			
エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区大師公園1
問い合わせ	(公財)川崎市公園緑地協会・大師公園管理事務所
TEL	044-276-0050
FAX	
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/shisetsu/category/30-3-0-0-0-0-0-0-0.html
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩10分



基礎情報

■我が国最大規模の中国式自然山水庭園。4,300㎡の広さと園路延長300mを誇る。中国・瀋陽市から、川崎市との姉妹都市提携5周年の友好記念物の交換交流として瀋陽市の庭園技術指導団の指導と協力のもとに造成が行われ昭和62年(1987)に大師公園内に開園した。中国の歴史と伝統にはぐくまれた自然山水庭園と明・清代を代表する建築様式が再現されている。

由来・エピソード

■瀋陽市は中国・遼寧省の省都で、各都市と鉄道で結ばれた中国東北地方の要衝。庭園の材料は全て中国から取り寄せ、中国人の庭園技術者の手による伝統的かつ本格的な山水庭園。瀋秀園の「瀋」は瀋陽市を指し「秀」には美しいという意味がある。瀋陽市の美しい景色を集結させた風雅な古典庭園建築様式が特徴。

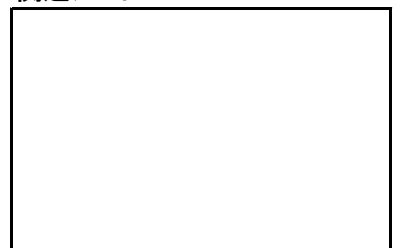
■黄色の瑠璃瓦と白壁の塀で囲まれた庭園内には、秀湖(しゅうこ)と名付けられた池のほとりに、知春亭(ちしゅんてい)、藕香榭(ぐこうしゃ)、攬翠亭(らんすいてい)などの楼閣が点在する。34種類、4万2,558枚を数える瑠璃(るり)瓦は明代、清代の皇帝の勅旨により建てられた寺廟や親王邸などに用いられたもので、端正で美しい線形を描く屋根を彩っている。樹木は柳、梅、松など24種類が植えられている。株物はつつじ、牡丹など38種。垂花門の前には「太湖石」という珍しい石が置かれている。太湖石は中国蘇州の近くにある太湖の湖底から切り出される非常に高価な庭石といわれている。石の特長は全体に大小無数の空洞があり形状は一定でない。特に奇形なものが庭石として好まれるという。

■川崎市と瀋陽市との友好交流は、文化・教育・医学・工業技術など広い分野で積み重ねられている。友好記念物の交換交流として、川崎市からは瀋陽市の運河沿いの遊園地へ大観覧車が贈られた。

補足・その他

■開園時間は午前9時～午後4時で入園無料。
 ■休園日は毎週月曜日・国民の祝日の翌日・12/29～12/31。

関連シート



かわさき区の宝物シート

宝物No.	だいしめでたやぶし
10-24	大師めでたや節

エリア	大師地区	シーズン	通年
	—	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物

所在地	大師地区周辺
問い合わせ	大師古民謡保存会
TEL	044-288-5865
FAX	044-288-5909
E-mail	—
URL	—
交通	京急大師線 川崎大師駅下車、その周辺地域



写真提供：大師古民謡保存会

基礎情報

■大師めでたや節とは、川崎の大師地区に古くから歌い継がれている古風で特色のある祝い唄である。羽田（大田区）と大師の間では、戦後すぐくらいまで嫁入り等による交流が盛んであった。このため、めでたや節はその結婚式等で良く歌われた。大師では、当時から一般に羽田節、大師節と呼んでいる。よく唄われる歌詞から、「おせど節」や「めでたい」と呼ぶこともある。ここから現在では「めでたや節」となっている。

■大師では、めでたや節を替え歌にして歌うという風習がある。その状況に合わせて、特に結婚式において歌詞を変えて歌い楽しむというものである。

由来・エピソード

■当時は婚礼や建前、船おろしなどの祝い事には、この唄が必ず唄われていた。その時・その場のお祝いの席に相応しい歌詞が作られた。

元々、皆の手拍子に合わせて独唱する唄なので、歌い方は人によって少しずつ変わり、個性的なところに味わいがある。

■平成19年から地元小学校でめでたや節に関する授業が行われている。きっかけは、大師古民謡保存会のひとりがめでたや節の云われを地元小学校の校長先生に話したところ、川中島小学校校長先生から、小学校創立70周年を祝う唄をつくってほしいと依頼されたことからである。授業は、大師古民謡保存会が学校に出向き行っている。授業の中では、最後にはクラスごとにめでたや節の歌詞をつくり生徒が歌う。クラスごとにつくった歌については、発表会を開催し歌を披露する。古民謡保存会では、その発表会が終わると小学生に修了証を贈っている。

（大師めでたや節の歌詞の一部）

- ・めでたい こちらの お酒盛り 松竹を かざりしめて おしゃく 十よ七
- ・お背戸（せど）に 倉が 七戸前（ななとまえ） 七戸まいの 倉よりも 親が大切
- ・川崎で はやる 大師さま 朝まいり 晩に 利益（りやく）さずかる

補足・その他

■当初、めでたや節を伝えていくことを目的に、「亀掘会」という団体が立ち上げられ、現在は「大師古民謡保存会」と名前を変えて活動している。

■羽田（大田区）には羽田節の保存会もある。最近では大師古民謡保存会との交流・親睦が行われている。交流・親睦では、お互いに羽田節、めでたや節の替え歌をつくり、歌い合いを行っている。

■昭和50年ごろに川崎市民俗芸能保存協会に登録された。

関連シート



かわさき区の宝物シート

宝物No.	ふじさきがんかけじぞう
11-1	藤崎願掛け地蔵



エリア	大師地区	シーズン	通年
	藤崎・観音	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区藤崎3-6-9
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「藤崎一丁目」下車徒歩2分



基礎情報

■その名の示す通り、願い事をしてお地蔵様を参拝すると、願いが叶う地蔵とされ、篤い信仰を集めている。毎年11月13日の年祭には、藤崎町内会ほか近隣の町内からも多くの方がお参りに訪れ、祈願旗を奉納される崇敬者も多い。

由来・エピソード

■江戸時代の中期以降、天明の大飢饉をはじめとする異常気象や噴火などによる飢饉が続いた。これらの犠牲者の霊を弔うとともに、こうした災厄から救われることを願ってお地蔵様を辻に建立したのが始まりと伝えられている。

■昭和20年(1945)4月の空襲によって焼失し、放置されたままの状態が続いたが、戦後に復元され今の場所に祀られた。その後の年月とともに傷みが著しくなったことから昭和55年(1980)8月に現在の願掛地蔵尊として再建された。

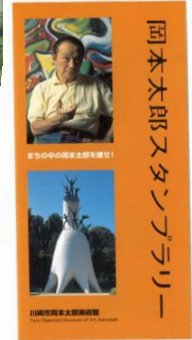
■管理運営は藤崎町内会の念仏講員からなる「願掛地蔵尊運営委員会」の人々によって毎月13日をご縁日とし念仏を唱え供養している。

補足・その他

関連シート

かわさき区の宝物シート

宝物No.	おかもとたろうさくよろこびぞう
11-2	岡本太郎作「喜び」像



エリア	大師地区	シーズン	通年
	藤崎・観音	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物

写真提供：藤崎小学校/NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎市藤崎3-2-1（藤崎小学校内）
問い合わせ	川崎市立藤崎小学校（見学に関して） 川崎市岡本太郎美術館（作品に関して）
TEL	044-288-2126（藤崎小学校） 044-900-9898（岡本太郎美術館）
FAX	
E-mail	
URL	http://www.taromuseum.jp/ （川崎市岡本太郎美術館）
交通	JR川崎駅よりバス水江町行きで「池藤橋」下車徒歩2分



基礎情報

- 川崎市高津区生まれの芸術家・岡本太郎の製作したブロンズ像。子どもが天に向かってリボンを掲げる姿が題材とされている。昭和60年(1985)の藤崎小学校創立30周年記念に地元の協力を得ながら岡本氏に制作を依頼したもの。翌年2月に校庭をのぞむ築山の一角に設置された。子どもの純粋さが素晴らしいと評価する岡本氏が藤崎小学校を訪れ、子どもたちとふれあいながら作品のイメージを膨らませたという。子どもたちには「リボンちゃん」の愛称で親しまれている。
- 祝祭日をのぞく平日9:00～17:00で見学は可（職員室に声をかけること）、無断立入は厳禁。

由来・エピソード

- 川崎市岡本太郎美術館により「岡本太郎スタンプラリー」事業が開始された。市内4箇所と岡本太郎記念館の岡本太郎の作品のスタンプをすべて集めると、美術館からスタンプラリー認定書と、川崎市岡本太郎美術館（多摩区）、岡本太郎記念館（東京都港区）のペア招待券セットが贈られる。川崎市内の公共施設に設置された岡本太郎作品（パブリックモニュメント）を広く市民に紹介し、市民生活において、芸術と触れあうことなどを目的としている。パンフレット（スタンプ台帳）には、市内の岡本太郎作品を所蔵する施設の情報や作品紹介、都内近郊の作品紹介も掲載されている。
- 5箇所のスタンプ設置施設
川崎市岡本太郎美術館／とどろきアリーナ／川崎市市民ミュージアム／大山街道ふるさと館／岡本太郎記念館

補足・その他

- 平成3年(1991)12月の川崎市市民ミュージアムにて開催された「川崎生まれの鬼才—岡本太郎」展を機に岡本氏は主要作品を川崎市に寄贈し、翌年には生田緑地（多摩区枳形）での岡本太郎美術館の建設が発表され、平成5年(1993)には川崎市名誉市民となった。平成8年(1996)1月7日逝去（享年84歳）。
- 平成23年(2011)2月26日に100年を迎えた。
- 藤崎小学校はかわさき大師サマーフェスタの名所めぐりウォークラリーのポイントとなっている。「喜び」像の前で「リボンちゃん」にちなんだクイズを

関連シート

(29-2) 太郎の夢

かわさき区の宝物シート

宝物No.	いしかんのん 石観音		
11-3			
エリア	大師地区	シーズン	通年
	藤崎・観音	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



所在地	川崎区観音2-16-3
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	http://www.e-daishi.net/ishikannon.htm (e-大師ネット)
交通	JR川崎駅よりバス 「観音二丁目川崎大師口」(市バス) 「観音二丁目」(臨港バス)下車徒歩5分



基礎情報

■表参道の天台宗・明長寺の境外仏堂。寛文5年(1665)に明長寺の住職、弁融法印によって建立された。本尊は石造りの如意輪観世音菩薩。「いぼ取り」のご利益があることで知られている。

■江戸時代には信仰を集めて賑わったといわれる。「江戸名所図絵」にも紹介され、地元の人々だけでなく江戸にも信者が多かった。大師参拝の際の立ち寄りコースとして定着していたという。霊亀石伝説、六句俳句碑、独吟万句詠草塚など当時を語る石造物が文化財として残されている。

由来・エピソード

■境内には「霊亀石」と呼ばれている手洗石が置かれており、次のような伝説が伝えられている。

『不漁続きだった享保18年(1733)、地元の漁師が漁を終えて帰ろうとすると、急に船が動かなくなってしまった。船の下を見ると大きな石がある。手洗石に手頃な大きさだったので、引き上げて石観音に奉納しようとしたが、なかなか引き上げることができない。すると、2、3匹の亀が現れ、漁師の手助けをしてくれた。石を引き上げることのできた漁師は、石観音にその石を奉納したところ豊漁になった。』

■「独吟万句詠草塚」は、宝暦8年(1758)大師河原村に住んでいた俳人花鳥庵梅動が、柿本人麻呂像奉納のために、矢数独吟(やかずどくぎん)を行った際の記念碑。矢数独吟とは、一定時間内に数多くの句を詠めるかを競ったもので、梅動は朝6時から夕方5時までの間に1万句の俳諧を詠んだといわれている。

■「六人一句碑」は延享4年(1747)に俳人茗荷坊の門人6名が観音に因んだ句を詠んだのを記念してつくられた碑。その他にも道標、力石などの石造物がある。現本堂は昭和47年(1972)の落慶で、以来「潮音殿」と称されている。

■大島5丁目の東大島小学校から池藤橋、藤崎小学校、石観音、産業道路の観音橋を経て塩浜2丁目の入江崎公園へと至る曲折した並木道は、かつて石観音にちなみ観音川と呼ばれた旧河道跡である。元は多摩川の古い流路であったともいわれ、広大な多摩川河口デルタの湿地帯の水は観音川に集まり江戸湾へと注いでいた。海苔養殖が盛んだった頃、観音川のような内陸河川には多くの河岸(かし)がつくられ、多数のベカ舟の舟だまりが点在していた。観音川の両岸には高い堤防が築かれ、藤崎小学校のあたりには2基の水門が並んでいた。ここから下流に向かい藤崎河岸、観音河岸、台河岸、四谷河岸、塩浜河岸と続いていた。ベカ舟の往来のみならず梨栽培農家に売られる肥桶を積んだ大型船ものぼってきたという。

補足・その他

関連シート

(10-17)川崎大師平間寺
(11-4)弁天神社・八海山神社

かわさき区の宝物シート

宝物No.	べんてんじんじゃ・はっかいざんじんじゃ
11-4	弁天神社・八海山神社



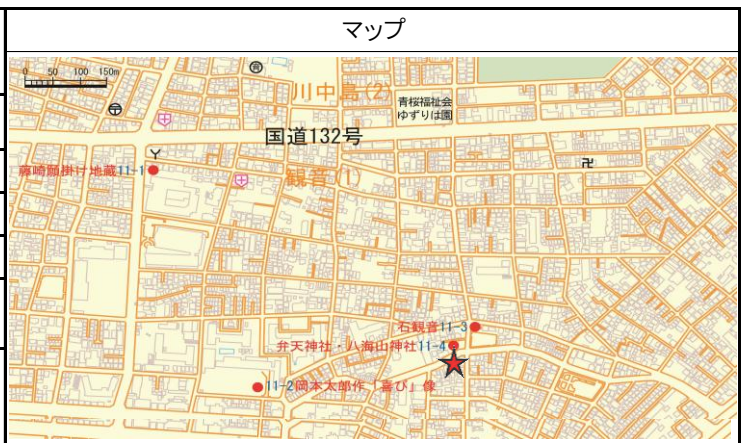
写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	大師地区	シーズン	通年
	藤崎・観音	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区観音2丁目1-60-5
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス下車徒歩5分 「観音二丁目川崎大師口」(市バス) 「観音二丁目」(臨港バス)



基礎情報

■一つの社に二つの鳥居が並んでいる珍しい神社。向かって左側の赤い鳥居が弁天神社で海苔養殖の守護神。右側の白い鳥居が八海山神社で製塩業の守護神である。

由来・エピソード

■すぐ前の道にはかつて石観音にちなみ名付けられた観音川が産業道路、そして東京湾へ向かって流れていた。海苔養殖が盛んだった頃、観音川には多くの河岸(かし)がつくられ、藤崎小学校のあたりから下流へと藤崎河岸、観音河岸、台河岸、四谷河岸、塩浜河岸と多くのベカ舟の舟だまりが点在し、ベカ舟の往来のみならず梨栽培農家に売られる肥桶を積んだ大型船ものぼってきたという。

■弁天神社の御祭神は、水神・農業の神として信仰される弁財天。かつて観音・四谷・台町・池上新田、四地区の海苔養殖の守護神であった。観音河岸の弁天様として親しまれ、旧暦1月11日には大師河原で最も大きいとされた祭礼「船祭り」が行われた。各地区から1艘ずつ計4艘の船を出し、観音河岸から徳本鼻の先まで行き、祝詞をあげて御神酒をまいたという。船には注連縄を張ってホオズキ提灯をつるし、鳥居と笹を立てて幟や吹き流しで飾り立てた。船は互いに帰らないように競い合い、酒を飲んで大騒ぎするため川に落ちる人も多く、女性達は着替えを持ち後を追って岸边を走ったという。夜には神楽が奉納された。やがて海苔漁の終焉とともに船祭りも途絶えることとなった。

■八海山神社の御祭神は、木曾御岳山の坂の神・火の神、八海山堤頭羅(でいずら)親王で、製塩業の

補足・その他

関連シート

(11-3)石観音

かわさき区の宝物シート

宝物No.
12-1

よつやぎでいなりじんじゃ
四谷義田稲荷神社

エリア	大師地区	シーズン	通年
	出来野・四谷	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



左：塩浜海岸の防潮堤（昭和13年）
 上：ハゼ釣りの風景（昭和15年）

写真提供：倉形泰造氏/NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区四谷上町23-20
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「四谷下町」下車徒歩2分



基礎情報

■池上新田が完成した翌年、宝暦13年(1763)の創建と伝えられ、須佐之男命（スサノオミコト）、大己貴命（オオナムチノミコト）の2神が祀られる神社。第二次大戦後、同じ町内から現在地に移転された。

由来・エピソード

■新田開発に参加する村民たちの多くは借財によって苦しい生活を送っていた。田畑は誰のものでもなく皆と一緒に耕し農作物を作るものと考えた池上家二十四代幸豊は、無尽の取金や作徳銭（年貢を納めた残り）を合わせた資金を、村民への貸付けや雑穀の貯蔵にまわし、作徳金の運用や利息などで新田開発を続けた。新田開発のなかでもこうした田畑は「義田」と呼ばれ、取り組みの無事を祈って神社が創建された。

■付近は江戸時代の稲荷新田村の一部で「四谷耕地」といわれた地である。4軒の家で開墾され「四ツ家」から「四谷」に転じたといわれる。昭和11年(1936)に稲荷新田から独立し、産業道路を挟んで四谷上町と四谷下町に分かれた。

補足・その他

関連シート

- (10-2) 池言坊
- (13-1) 汐留稲荷
- (32-3) 池上幸豊

かわさき区の宝物シート

宝物No.	しおどめいなり
13-1	汐留稲荷

エリア	大師地区	シーズン	通年
	池上新町	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
----	--

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物
------	---



所在地	川崎区池上新町2-24-21
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「臨港警察署前」下車徒歩3分



基礎情報

■豊宇気姫命、大物主大神、崇徳天皇、池上太郎左衛門幸豊命を祭神とする社で、宝暦11年(1761)に池上新田村の守護神として現在の塩浜4丁目（川崎貨物駅構内）に勧請されたのがはじまりとされる。境内には「池上幸豊翁之碑」が建立されている。

由来・エピソード

■現在の池上新町と池上町は江戸時代、池上家24代幸豊によって開墾され「池上新田」と命名された土地である。幸豊は享保3年(1718)大師河原村生まれ。12歳で亡くした父・幸定の跡を継いで大師河原村の名主となった。この池上新田の開発によって功績を上げると、以降、製塩や芒硝（医薬品の原料）、ナシ・ブドウの果樹栽培、和製砂糖・氷砂糖の製造と諸国への伝法の行脚など産業開発にも貢献し、川崎の発展に大きな功績を残した人物である。

■現在地はかつての池上家の広い屋敷地の一角にあたり、明治時代に塩浜から今の場所に移されたとい

補足・その他

関連シート

- (10-2)池言坊
- (12-1)四谷義田稲荷神社
- (31-3)池上幸豊